



SITA CHUCHURA (1970年10月26日、日大隊により初登頂) <2013年10月29日ヒドンバレーより竹花晃さん撮影>

新年を迎えて

桜門山岳会会長 原田 洋

皆さん、明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はアベノミクスの影響か中高年の登山を始め女性の登山者も一段と増加した様に感じられました。日大山岳部も景気の上向きの影響か？新入部員も二桁(現在は8名)になり、長い間低迷していた状況を一応のキャッチアップが出来たと思います。

この様な中、これから部員指導の中心になると思われる池田祥子部員がロッククライミングの練習中滑落、意識不明が二カ月弱続きました。幸運にも御家族、大学関係者、部員、OBの方々の励ましにより一人で歩行、会話も出来るまで回復したことは本人の生命力に由るものと思います。また、この間部員、OBの方々には多大なるご支援、募金へのご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今後も更なるご支援をお願いする事も有るかと思いますが、何卒引き続きご理解ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

昨年の総会にてお話をさせて頂きましたが、桜門山岳会のバリューを高める為にもファンダメンタルな部分を強化する必要があるかと思います。今年も昨年同様、多くの新人部員を獲得し、将来の桜門山岳会を背負って行く人材を育てる事が我々のミッションだと考えています。部員の活動が諸般の事情で満足に行われていない現在、部員の体力・技術力向上にOB一丸と成ってサポートしていく事が必要でしょう。

ネットを通じての外部へのアピール、遭難対策の強化、活動資金の充実等、バリューを高める施策が急務を思います。

今年、新入部員の獲得がある程度出来れば、来年、再来年は強固な山岳部が確立されるのではと思います。大学からの援助も現金予算から現物支給に変わった現在OBの方々に頼る所大であります。

安心・安全に登山が出来る環境作りが部員のみならず、御家族の為にも構築する事が要求される時代に成りました。学生への投資が今後の桜門山岳会の鍵を握ると思慮致します。

今年の総会までには遭難対策基金を創設し山岳部員、若手OBが安心して対応出来るシステムを構築したいと考えていますので会員各位のご理解とご援助を切にお願いする次第です。

今年も部員・会員の皆様の安全登山、及び皆様にとって幸多き年で有ります様心から祈念申し上げます。

池田祥子部員の治療経過について

山岳部監督 大谷直弘

昨年の12月19日、南岸低気圧が東京に接近し寒くどんよりした朝を迎えていた。以前より今日は何とか仕事の調整をして池田の病院へお見舞いに行くことにしていた。

午後取引先との打ち合わせを終えて府中の病院に向かう。12月に入りさすがに仕事も忙しくなっており、池田へのお見舞いも中2週が空いてしまった。

病院に入り受付を済ませ、毎度のことだが先に1階のリハルームを覗く。今日はリハビリタイムとは重なっておらず、池田はいないようである。どうやら2階のナースステーションにいるのかな？ リハビリタイム以外はナースステーションで、病院のスタッフの方々とコミュニケーションを取っていることが多く、今までのお見舞いの多くは池田の病室よりナースステーションや食堂で会うことの方が多かった。また、お見舞い時の3回に1回はリハビリの見学や補助的な形でリハビリに参加もさせて貰った。

しかし今回はナースステーションにも不在なので病室に立ち寄ってみることにした。

池田はベッドに胡坐をかいて色紙を見つめている。暫くの間そんな池田に声をかけられず、カーテン越しに様子を伺うことしか出来なかった。色紙は事故後、まだ池田の意識が戻っていない時期に山岳部の部員が、彼女への励ましと快気の願いを込めて寄せ書きをして病室に届けたものだった。

寄せ書きの色紙の中央には、事故の前月に初夏合宿で登った奥穂のピークの集合写真を貼付しておいた。写真の輪の中にある池田の笑顔があまりにも印象的な写真だったからだ。

時間をおいて池田に声をかけてみた。

大谷「池田、ご無沙汰しちゃったね。お見舞いに来たよ。色紙見ていたの？」

池田「うん」

大谷「この写真は山岳部の仲間なんだよ、誰か分かるかい？教えてくれるかな」

池田「う～ん、良く分からない」

色紙の余白には筆圧の弱い“ガンバル”の文字が幾つか書き添えてあった。聞いてみたら池田自身が書き添えたとのことだった。

その色紙も何度も見て貰っているのか、大分角々が擦れてきているようであった。

大谷「そうか、でも池田は少し前まで大学の仲間達と山に登っていたんだよ」

...・と教えると

池田「皆と会いたいな...・」と言ってその色紙を大事そうに私物袋に納めた。

昨年7月13日の事故から、ほぼ意識の戻らないまま8月31日に現在の府中市366リハビリテーション病院に転院してきてから、摂食、歩行、意思の疎通など目をみはるほどの回復を続けてきました。しかし、記憶の回復については今しばらく時間がかかるようであります。

記憶については過去の事や、その日あったこと、肉親、周囲のひとたちのことなど、まだまだ回復の途上であります。

また、四肢の方では左目・左手・左足に後遺症を残しており、歩行や可動範囲の改善に向けたりハビリも重点的に継続して行われています。

以下簡単ではございますが回復具合をご報告させていただきます。

- ・食事を自己で摂れるようになった
- ・ゆっくりではあるが歩行が出来るようになった（方向転換はリハビリ中の課題）
- ・排泄等も若干の介助を受けるのみとなっている
- ・入浴については介助が必要である
- ・意思の疎通は日常生活においては問題ないくらい出来ている
- ・記憶については過去の事、昨日の事、今日の事...・などが戻って来ていなかったり、順序立てられていなかったりしている。
- ・読み書きのリハビリも行われている。

池田自身、山岳部の仲間の数名は記憶しており、自分は大学において生物資源科学部で森林（旧農獣医：林学科）を勉強していたこと、短大から編入試験を受けたことなどもしっかりと告げることができます。しかし、それがどのような事だったのかを概略においても思い出せないということです。山岳部の仲間は思い出せるが、自分が山岳部で一生懸命になって山を登り、部活に励んでいたことなどは殆ど思い出せないようであります。もちろん、事故当時の記憶もありません。

家庭生活の中についても同じようであり、印象的な出来事は強く記憶に刻まれているのですがそれがどういうことで誰がどのように関わったかまでは思い出せないようです。

今回、自身が入院に至ったことも現在の置かれている状況も理解できていません。

ご家族の方からは本年1月の第2週に退院を予定しており、退院後は祖父母の実家の方に転居をし、リハビリを継続して行うとの報告を受けております。

O Bの皆様・会員皆様には今回の事故において物心両面で多大なご心配・ご支援を頂きましたことに、あらためてお礼を申し上げさせていただきます。

現在は外科的な治療や食事の制限などは一切無く、日常生活への復帰を目指したりハビリが ひとすら続けられております。短信に寄せてご心配を頂いているO B・会員皆様に途中の経過ではございますがここにご報告をさせていただきます。

募金額詳細とご協力者名簿（１２月２５日現在）

金額	人数	計	ご協力者名(五十音順)
1,000,000	1	1,000,000	旭岡寛二、安西偕二郎、飯島正敏、飯田祐一郎、家口寛、池田錦重、池田新三、石垣聡美、石川一郎、石川重樹、石坂昭二郎、磯川忠男、今村文彦、井本重喜、岩下誠、植木博幸、宇田川勲、鶴原孝裕、梅田一義、榎並洋三、大井凡、大越壮一、大澤弘明、大城泰、大谷直弘、大塚洋二、大野敦史、岡田貞夫、小川郁男、小田切吉夫、尾上昇、風巻和男、片柳實、加納崇史、柄澤洋城、川上伸生、川崎吉光、川那辺一、岸田達明、木津直人、木村克久、小島藤司、小林州行、今野善郎、斉藤大輔、斎藤隆、嵯峨野宏、眞田幸俊、澤入誠司、澤野新一郎、柴田健一、清水肇、下崎雄二、下村忠幸、素木喬三、菅原省司、杉山敦雄、鈴木弘之、鈴木馨、鈴木浩太郎、鈴木快美、須田貴志、関孝治、関恍哉、芹沢浩正、高木大地、高澤誠、高橋正彦、高緑繁伸、高山公明、田中昇、谷口元、田村幸英、田山将、津田和幸、鶴見暁子、寺嶋信一郎、土合敦彦、徳田昌久、戸倉正博、鳥居創太、中川平八、中川秀利、中里修、中嶋啓、中田二照、中村順哉、西川正雄、根本君也、野本修、羽賀正一、早見紀章、原澤修、原田洋、日本修、平井伸明、平戸伸之、平林良一、廣田亮、福島祐二、藤井邦昭、船田良、古野淳、古畑勇、堀口章宣、本多直也、前田猪佐雄、松井正、松野豊、松本達彦、松本陸雄、真鍋政道、向笠茂雄、武藤禎康、村木富士、村口徳行、村田顕、村田慎也、目黒義和、望月重昭、本片山数雄、森泉寿夫、森山勇、茂呂嘉之、安川英利、安田八郎、山平靖、山本晃弘、山本修、山本芳雄、横山裕、若林裕子、和田政司、渡辺将則、渡邊勇一【以上135名】
500,000	2	1,000,000	
300,000	1	300,000	
200,000	1	200,000	
150,000	2	300,000	
100,000	5	500,000	
50,000	16	800,000	
40,000	2	80,000	
30,000	23	690,000	
25,000	6	150,000	
20,000	14	280,000	
10,000	47	470,000	
5,000	15	75,000	
合計	135	5,845,000	



学生活動報告



秋山合宿

山域) 南アルプス 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北岳

期間) 10月31日～11月4日 移動日1日、実働3日、予備日1日

メンバー) 3年 CL 山浦 2年 M 賀来素直、宝迫哲史

1年 井上理、加藤純、櫻井鈴音、篠崎さやか、桧山泰平、水越健輔、山縣巧

行動) 10月31日 新宿～甲府～広河原～北沢峠～北沢駒仙小屋 BC1

BCに到着すると日本大学医学部山岳部がいた。テントを設営し、天気図、食事をとる。

11月1日 北沢駒仙小屋～甲斐駒ヶ岳～摩利支天～北沢駒仙小屋 晴 -1.0

ヘッドランプをつけながら、初めての井上、篠崎、加藤もよく歩けている。順調に仙水峠に到着。頂上に着き、その後駒津峰、仙水峠を経てBC1に帰幕する。櫻井の体調が悪くなり約38度の熱という報告をうける。明日は水越にトップを任せることにする。

11月2日 北沢駒仙小屋～小仙丈ヶ岳～北沢駒仙小屋(バス)～広河原 晴 -0.6

朝、やはり櫻井に熱と頭痛があるということで山浦が付き添い、1時間ごとにサーバー交信し2年に仙丈ヶ岳を任せてみる。

朝の出発トップは1年の水越で、前日の夜から地形図とエアリアをよく確認していた。北沢峠を経て尾根上を順調に登っていく。2時間程歩いたあたりで、加藤の様子がおかしいことが分かる。前日の疲労か、左足股関節の痛みを訴え始める。桧山は出発前から頭痛を訴えており、2人の様子を見ながら行動する。大滝の頭を過ぎた辺りから急勾配な道が続き、森林限界を越え視界が開けてから登山道上に雪が現れる。日陰の部分は凍っており、小仙丈ヶ岳まで慎重に登る。小仙丈ヶ岳より先でアイゼンを装着する可能性を考え、小仙丈ヶ岳で1年生のアイゼンの確認をする。まだ調整ができていない1年がいることが分かりアイゼンの調整を行う。しかし加藤と桧山の体調、状態のよくない道、仙丈ヶ岳までのリミットの3点を考え、小仙丈ヶ岳より先にはいかず下山することを決める。帰幕後はバスの時間が迫っていたため急いで撤収を行う。加藤に広河原バス乗り場で別れを告げ、広河原に到着後、明日は1時間出発を早めたかったので山浦が大樺沢まで赤布をつけに偵察に行く。崩壊は相変わらずだが徒渉場所にはしっかりした橋がかけられている。櫻井は少し調子を取り戻したが、まだ微熱があるようだ。

11月3日 広河原～二股～八本歯ノコル～北岳～肩の小屋～白根御池小屋～甲府 晴のち雨

少し微熱のある櫻井をBCに残し、定刻通り出発する。昨日までに比べて体感温度がかなり高い。出発後、賀来が大樺沢より北にある沢をつめていったので訂正する。そこから右岸にわたりさらに左岸に戻る。二股に向かう途中でやっと空が明るくなってきた。バットレスの北寄りには雪がついているが、四尾根あたりはまだであった。落石が怖いので一気に進みたかったが、だんだんと凍結した部分が出てきて全員歩きづらそうなのでアイゼンを装着させる。コルへの木製梯子では賀来と宝迫がしっかりと1年をマーク、フォローしていた。そこから順調に登るが頂上付近は雪があったので、井上、篠崎、山浦でザイルをつなぎ歩く。無事登頂、北アルプスには雪が見え景色も素晴らしいが、富士山に笠雲である。申し訳ないがそそくさと下山する。

総括 事故から3ヶ月半、目的を見失わないような山登りを心がけようと望んだ南アルプスであったが、反省会でも主に生活技術の点が多かったのは皆が意識出来ていたからこそであろう。幕営、食事、睡眠、レイヤリングなどといった基本中の基本を2年生がよく指示を出していたのも自らを成長させてくれるものに違いない。偵察を行うことは出来なかったが、より生活力を向上させるためにも今回の合宿を良い習慣を身につける一歩になってくれれば良いと願う。(記・山浦)



↑甲斐駒ヶ岳山頂にて



↑北岳山頂にて



初冬合宿

目的) 生活技術の確立、雪上技術(歩行・ロープワーク)の向上

リーダーシップ・メンバーシップの向上

山域) 北アルプス北部 白馬八方尾根

期間) 11月27日～12月3日(移動日1日、実働6日)

メンバー) 3年 CL 山浦祥吾

2年 M 賀来素直、宝迫哲史

1年 井上理、加藤純、篠崎さやか、水越健輔、山縣巧

OB 飯田祐一郎(11月28日～12月1日)

行動)

11月27日 移動日

新宿 18:00～22:30 白馬八方バスターミナル

11月28日 白馬八方バスターミナル～兎平～八方池山荘 CS1 風雪 1.0

兎平で準備をして出発。兎平の積雪は1mほど、未圧雪のためスキー場から深いところで腿ラッセルを強いられる。山浦、賀来、水越、山縣でラッセルを繰り返す。例年よりスキーヤーの数が多いが上部のリフトは動いていない。黒菱平で篠崎が体調不良を訴えたため、山浦、宝迫のザックをリフト乗り場にデポしトレースを残す。八方池に到着後、山浦が篠崎の様子を見ている間、賀来、宝迫がデポしたザックを持って登り返す。大事をとって篠崎は山荘に素泊まりする。冬型が決まって来た。

11月29日 八方池山荘 CS1～八方山～八方池 BC1 風雪 -8.0

食当の不手際で出発が遅れる。井上、篠崎の荷物を山浦に分け、出発。朝からラッセルは変わらない。賀来が頑張っている。八方山ケルンまで出ると風雪がかなり強くなる。コンパス、ゴーグル、防寒をさせ、進むが第三ケルンで賀来がシャリバテ(空腹でバテること)だという。八方池の積雪は1mと少し、夜になると暴風雪となる。小一時間雪かきをしてもあまり変わらない。明日も間違いなくラッセルなので雪上訓練以外のものは置いていくことにする。

11月30日 八方池 BC1～雪訓場～八方池 BC1 晴 -1.7

朝起きると装備テントV4が風によって破壊されている。積雪は1m65cm。やはり慣れないせいか、各個人の身支度が遅れる。晴れてはいるがいつまでもつかわからなかった。扇雪溪に向かいながら他に雪上訓練が出来そうな場所を探す。大唐松沢上部でいい場所を見つけ雪訓開始。遠見尾根、五竜が綺麗に見える。ロープワークを一通り行う。2年は復習してきたのかよく指導している。帰り道にFIXを2ピッチ練習する。BCに着くと次第に天気荒れてきた。夜、宝迫が具合を悪くする。

12月1日 八方池 BC1～八方池山荘～第一ケルン BC2 くもり

朝起きると天気は落ち着いている。BC を第一ケルンに移し、体調が悪かった宝迫を下山させる。その後第一ケルン付近で FIX を 4 ピッチ練習する。

1 2 月 2 日 第一ケルン BC2 ~ 第三ケルン ~ 第一ケルン BC2 ~ 白馬八方バスターミナル 風雪

順調に第三ケルンまで歩く。足取りはしっかりとし、全員やっと順応してきたようだ。第三ケルン付近の斜面で直登、直下降、ダイヤモンドを行い、さらに弱層テスト、埋没訓練、ビーコン搜索、ゾンデ搜索を行う。BC2 に帰幕後、撤収し、ツェルト搬送を行いながら黒菱平に到着、スキー場を下りゴンドラに乗る。夜はバスターミナルでステーションビバークとなった。

1 2 月 3 日 白馬八方バスターミナル ~ ゲレンデスキー ~ 白馬八方バスターミナル 晴れ

井上はゼミの入室試験があるというので帰らせる。山スキーシーズン到来に向けて朝からゲレンデにてスキーの練習を行い、17 時のバスで帰京した。今シーズンは 3 ~ 4 回程度の山スキー山行を実施したい。

総括 入山で冬型の気圧配置が決まり、雪も多くラセルを強いられた今回の山行は 1、2 年生にとって厳しいものであったかもしれないが、徐々に順応してくるメンバーも見受けられこれからが楽しみである。一方、まだまだ生活技術の未熟さが彼らの能力の足をひっぱっているようにみえる。その点に関し、冬合宿に向けて今回の反省をしっかりと生かしたい。(記・山浦)



← 雪上訓練する部員



冬山合宿計画

目的) 縦走計画の遂行

山域) 南アルプス 鳳凰三山、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳

期間) 平成 25 年 12 月 27 日 ~ 平成 26 年 1 月 7 日 < 移動日 1 日、実働 5 日、予備日 6 日 >

メンバー) 3 年 CL 山浦祥吾、2 年 M 賀来素直、宝迫哲史、1 年 井上理、桧山泰平、水越健輔、山縣巧

日程)

12月27日(金) 新宿～甲府～夜叉神峠 CS1

28日(土) 夜叉神峠 CS1～大崖頭山～南御室小屋 CS2

29日(日) 南御室小屋 CS2～薬師岳～地藏岳～早川尾根小屋 CS3

30日(月) 早川尾根小屋 CS3～アサヨ峰～北沢駒仙小屋 CS4

31日(火) 北沢駒仙小屋 CS4～仙丈ヶ岳～北沢駒仙小屋 CS4

1月1日(水) 北沢駒仙小屋 CS4～双児山～甲斐駒ヶ岳～北沢駒仙小屋 CS4 ～戸台

2日(木) 予備日

～7日(火) 予備日

エスケープルート) 夜叉神峠～苺平→同ルート下降

苺平～広河原峠→鳳凰小屋経由御坐石下山

リミット) 1月4日、アサヨ峰を越えられなければエスケープ

オーダー) 賀来・水越・桧山・宝迫・山縣・井上・加藤・山浦

赤布・赤旗設置場所) CS1～CS4の天幕地、その他必要と感じた場所

その他天幕可能地) 鳳凰小屋、広河原峠、仙水峠、駒津峰、仙水小屋

周辺営業・開放避難小屋) 南御室小屋(有人) 薬師岳小屋(有人) 鳳凰小屋(有人) 橋本山荘(有人) 七丈小屋(有人) 早川尾根小屋、北沢駒仙小屋、仙丈小屋

危険箇所・対策)

場所	危険	対策
甲斐駒ヶ岳頂上直下	滑落・転落	ロープを出す

個人山行記録

10月27日 百蔵山～扇山 2年 L 賀来素直、宝迫哲史 1年水越健輔、桧山泰平

11月5日 湘南 鷹取山 3年 L 山浦祥吾 コーチ 飯田祐一郎 監督 大谷直弘

11月9日 日本山岳会学生部マラソン大会



11月16日 飯能 日和田山

メンバー) 3年 L 山浦祥吾、2年 賀来素直、
1年 水越健輔、山縣 巧 篠崎さやか
コーチ 飯田祐一郎 監督 大谷直弘



11月20日 丹沢 鍋割山～塔ノ岳
 メンバー) 1年 荒木優一郎、 監督 大谷直弘

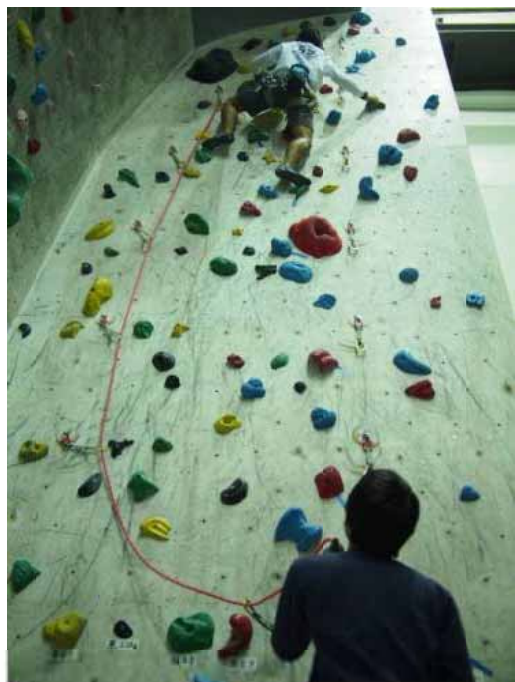


← 塔ノ岳山頂にて

鍋焼きうどんと富士山→



11月25日 江戸川橋 T-WALL
 メンバー) 3年 CL山浦祥吾 1年 水越健輔、荒木優一郎、山縣 巧
 ↓ T-WALL



12月14日 湘南・鷹取山
 メンバー) 大谷監督 2年 L 賀来素直
 1年 水越健輔、山縣 巧、篠崎さやか



↓ 登る一年生部員の篠崎



↑ 登る一年生部員の山縣



日本山岳会 冬山講習会 蝶ヶ岳登山<12月21日~12月23日>

メンバー：L・古野（副会長・日大OB） 山本（ガイド・明大OB） 三戸呂（明大OB） 青年部2名（太田、清水） 学生部4名（日大：宝迫、水越、檜山、東京工芸大：木村）

12月21日 移動日 平山城址公園～沢渡～上高地山岳研究所

宝迫、檜山、東京工芸大学の木村くんは、講師の山本さんの車に乗せていただき、上高地山岳研究所へ向かう。先発隊の古野さん、1年の水越、講師の三戸呂さん、青年部のメンバー2名と合流後、山研内で基本的なロープワークおよび個装点検。

12月22日 上高地山岳研究所～徳沢～長堀尾根CS

出発の準備の遅れにより、予定よりも20分ほど出発が遅れる。徳沢から先の長堀尾根は長い樹林帯である。ワカンのトレースあり。講師の方から、歩行の仕方、冬山でのレイヤリングなどを教わりながら歩く。長堀山手前の広いスペースを本日の天幕地とし、テント設営の手順を教わりながら二つ張る。日大で用意したペミカンカレーは好評であった。夜は風も無く快適であった。上高地では放射冷却でマイナス20度まで下がった。

12月23日 長堀尾根CS～蝶ヶ岳～長堀尾根CS～上高地山岳研究所

天気がとてもよく、絶好の登山日和であった。しばらく樹林帯が続き景色が見えなかったが、頂上からは穂高、槍ヶ岳、富士山も見え、360度素晴らしい景色であった。頂上からの景色を楽しんだ後、身体が冷えてきたので早めに下山する。天幕地で素早く撤収を行い、徳沢まで問題なく下る。檜山は疲労から、歩くペースが落ちていた。徳沢過ぎから曇り始める。上高地山岳研究所に到着後は、本日中に帰らなければならなかったため、素早く片付けを行い帰京。（記・宝迫）



← 絶好の晴天に恵まれた蝶ヶ岳山頂にて

理事・評議員会報告

9月25日(水)千石部室 出席者：山本、原田、高澤、大谷、古野、学生2名

- 1) 池田祥子君の経過報告と今後の見通し 容態が好転、声が出る様になった
- 2) 学生の活動 大学に活動範囲を確認(後日活動開始の許可が出た)
- 3) 天幕懇親会 上高地日本山岳会研究所にて10月19日~20日開催
- 4) 会報発行について
- 5) 90周年記念について

10月22日(火)千石フェニックス 出席者：原田、大谷、古野、須田、若林

- 1) 池田祥子の経過報告と今後の見通し
- 2) 学生の活動予定・報告
- 3) 募金経過報告
- 4) 新年会と冬季スキー懇親会予定
- 5) 新年会と冬季スキー懇親会予定
- 6) 90周年記念行事

11月28日(火)千石部室 出席者：原田、高澤、大谷、古野、鈴木、学生

- 1) 池田祥子君の経過報告、2014年1月第2週に退院、保険の手配をする
- 2) 学生の活動予定、初冬合宿：八方尾根にて雪訓
- 3) 池田君の募金、12月で一応締めて短信にて最終報告をする
- 4) 会報35号発行及び予算(専会63万円)
- 5) 新年会(1月21日、第一ホテル ラ・パランサを予定)と
冬季スキー懇親会(啄木鳥山荘を予定)について
- 6) 会報発行編集方法について

12月25日(火)千石部室 出席者：原田、高緑、中嶋、鈴木、大谷、高澤、古野

- 1) 池田祥子さんを支援する会 募金について
¥5,845,000 135名(12/25現在)
12月末にて締め切ってご家族に監督よりお渡しいただく。
- 2) 学生の活動報告と冬山予定
11/27-12/2 初冬合宿 八方尾根
12/21-23 JAC 蝶ヶ岳冬山講習会 上高地山研~長堀尾根~蝶ヶ岳
メンバー)2年 宝迫、1年 桧山、水越、OB 古野
1月第2週 スキー山行 大谷監督他学生数名
- 3) 会報35号発行
- 4) 短信164号発行・印刷・発送
- 5) 新年会と冬季スキー懇親会
1月21日(火)新年会 ラ・パランツァ
2月8日(土)~9日(日) 冬季スキー懇親会 きつつき山荘
- 6) 90周年行事
5月31日(土)私学会館にて 14時~総会、16時~90周年祝賀会

次回理事・評議員会予定は 1月28日(火)です。



アンテナ

10月19日～20日に秋季天幕懇親会が上高地山岳研究所にて開催されました。



参加者23名

<OB> 石坂、中嶋、大城、中川、嵯峨野、戸倉、平戸、古畑、原田、大谷、古野、飯田

<学生> 山浦、賀来、宝迫、篠崎、山縣、水越、加藤、桧山、荒木、櫻井、井上

平成25年11月3日付けで発令されました平成25年秋の叙勲で

平山善吉OB(建築/昭和27年入部)が瑞宝小綬章を授与されました。

関連記事

「若者は新しい挑戦を」南極観測隊の元隊員で日大名誉教授の平山善吉さん
(千葉版 産経ニュース配信 2013/11/3)

URL : <http://sankei.jp.msn.com/region/news/131103/chb13110315410000-n1.htm>

訃 報

高松雄萬OBがご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

高松雄萬（法23卒）2013年9月29日病死（享年82歳）

会員の住所変更のお知らせ

1）大島育雄OB

2）山崎隆史OB（S31入部）:

3）斉藤大輔OB（H3入部）:

4）高木大地・平成20年入部

編集部よりお願い

新田 業、浜 大剛、鈴木雅博、伊藤英彦、山本 泉、金子裕幸

上記6名の会員の動向、住所等ご存知の方は原田洋（080 - 4175 - 8118）まで
連絡頂きたいようお願い申し上げます。



温故知新 ~ 山やの履歴書 ~

メトロ会の発足から現在までの経過について



原田 洋（S41年入部）

毎年9月にメトロ会と称し千葉大、中央大、学習院大、一橋大、法政大、慶応義塾大、明治大、日本大、立教大、東京大、東京女子大、東京農大、早稲田大及びメトロ会会友（日大医学部山岳部OB他）の山岳部OB会員（高齢者に限定されている）が集まり総会が開催されている。

各大学にはメトロ会の世話人が一人おり、日大は昨年まで山本晃弘OB、現在は神埼OBが対応している。総会では各大学の学生数名及び監督が出席し現状報告をする事になっており、各大学山岳部の部員数、活動などが把握出来る。

以下は「メトロ会の20周年を振り返って」を書かれた東大世話人の武内氏の言葉を抜粋して発足当時の経緯を理解して頂ければと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・

「そもそもメトロ会の発足は、日本山岳会の総会の折に、私に早稲田の日下田君、小倉君から、
“戦前からあった早稲田・立教・東大3校連絡会をまたやろう」と提案があり、立教の中村太郎君
の強い支持もあり行われることになった。その後3大学だけでなく6大学に拡大、これに日大、中
央も加わって、「東京8大学山岳OB有志の会」として発足することになった。第一回の懇親会は
早稲田が幹事校となって行われた。最初から戦後の混乱した状況の中で苦労しながら山行を行っ
ていた山仲間同士で仲良く話合おうではないか、との意図からスタートしたもので、難しい話はなし
で、楽しい時間を共に過ごそうとのことだった。その後、すぐに東京農大、学習院、一橋、千葉大
それに東京女子大も正規の参加校となり、計13大学として今日に至っている。「山岳部OB会有
志の会」の名称も、もっと簡単でわかり易い名称にしようということになり、「メトロ会」ではと
いう小倉君の提案で、これに各大学世話人が同意して決定し、2回目から使われることとなった。

以後、メトロ会は大学山岳部の支援組織として、日中韓の三国交流学生登山など日本山岳会とも
連携しつつ、ささやかながら応援に努めてきた。また、毎年有志で学習院の日光光徳小屋に集った
り、チベット、モンゴル、カムチャッカ、ブータン、などの登山・旅行に出かけたり、有志で懇親
を深め、見聞を広めることに努めている。今後のメトロ会については、若い層の皆さんの考え方に
従って、20回目を契機として、その存続を含めご検討をお願いしたらよいのではないかと考える。

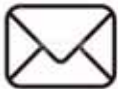
・・・・・・・・・・・・・・・・

以上、武内氏が2012年の9月に配布されたメトロ会名簿に書かれた内様です。

桜門山岳会員の中でもメトロ会の経緯をご存知ない方もいらっしゃると思いましたので

上記を参考にして頂ければと思い武内氏の言葉をそのまま転記させて頂きました。(記・原田)

編集後記： 新年あけましておめでとうございます。



今年は日大山岳部が創部されて90周年を迎えます。先輩方の歩んでこられた登山の
歴史をひしひしとを感じる一年となりそうです。そこで是非、会員の皆様がそれぞれに
お持ちの、感慨深い山の思い出をご寄稿ください。誌上に掲載させていただき、皆で
共有できたらと思います。何卒お待ちしております！（記・若林）

ご連絡はメールアドレス wakabayashi-yuko@gmail.com

または、電話 090-1204-0352 まで。